

日刊 動労千葉

84. 9. 7

No. 1737

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

高令者への退職強要を許さない

9/3, 4高令者懇談会開催 9月7日より撤回・解明への団交へ

国鉄当局は「余剰人員対策」と称し、休職制度の導入、退職強要、出向の首切り「三本柱」を提案し、とりわけ56才以上の退職強要に全力をあげています。動労千葉は九月三日、四日、56才以上の組合員を対象とした「高令者対策懇談会」を開催して高令者の様々な意見や要求を討議し集約するとともに、当局の退職強要を許さず、高令者の立場にたった取り組みをさらに一層強力に展開していくことを確認しました。

「五六才以上全員の退職」を強要する当局

国鉄当局は七月十日に首切り「三本柱」の提案を行うとともに、十九日、口頭説明で「昭和59年度末までに56才以上となる者の『依願休職』」について、本年度限りとして「九月一日募集、十月一日以降休職」との一方的な攻撃をかけてきました。

すなわち「56才以上の職員について、今年度に限り休職すれば退職条件は従来どおりにするが、休職せずに三月三十一日まで在職して退職する者は特別昇給8号俸も昇給、ベアもない」という目茶苦茶な攻撃です。

これは事実上、56才以上の全職員に対する退職強要であり「56年締結の特退協定」を無視するものです。

当局は、国労と動労千葉の闘争を背景とした闘いによって「依願休職」の九月一日募集、十月一日休職を断念しました。しかし当局は依然として全国の国鉄労働者の激しい反対を押しきって強行しようとしています。

高令者をつつみ、組織全体で闘おう

こうした情勢下にあつて、動労千葉は九月三日、四日の両日、56才以上の組合員を対象に「高令者対策懇談会」を開催しました。

懇談会には、高令者、当該支部代表二五名が出席し、中野委員長のあいさつ、布施書記長の情勢報告が行われ、多くの切実で貴重な意見が出されました。

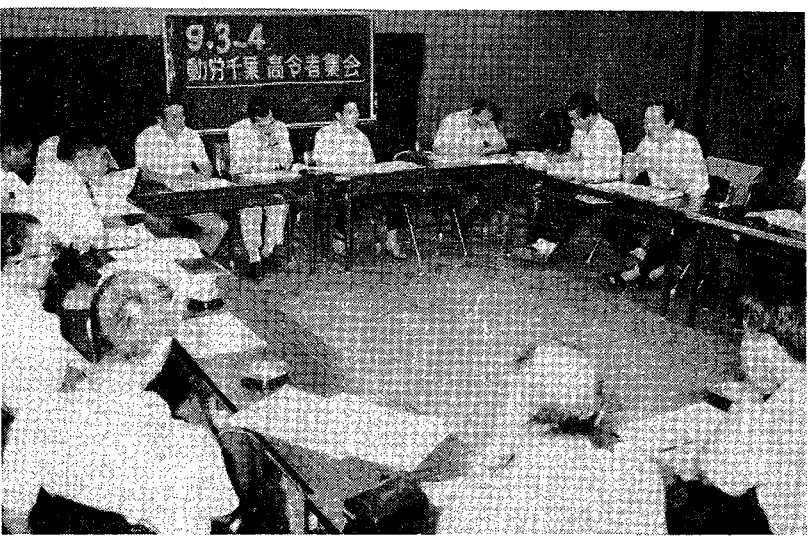
懇談会に出席した組合員は、国鉄入社直後、定員法、レッドページという大首切り攻撃を受け、四〇年間低賃金のもとで働かされたあげくに、「悪条件でやめさせる」当局の仕うちに怒り、労働条件を明示させる早急な取り組みを要求しました。

現在、動労「本部」革マルは、「三本柱」は首切りではなく労働者の為になる当局の温情ある施策であるとデマ宣伝し、全く許せないことには全国各職場で自らの組合員の高令者にむかつて、「後進に道をゆずるべきだ」と当局になりかわって退職勧奨の「オルグ」に高令者追い出しをやっている。このような輩を絶対に許してはならない！

われわれは、高令者の今後の生活設計を全面的に破壊する「三本柱」攻撃を絶対に許さず、年輩者も若い組合員も団結して闘いぬくことを確認しました。

今秋「三里塚―国鉄」決戦の爆発で、「三本柱」を粉碎しよう！

動労千葉は高令者から出された要求をまとめ、「申第十八号」（9月5日付）をもって直ちに当局に申し入れを行いました。「三本柱」粉碎―三里塚二期阻止の10・10かつてない大決起へむけて、九月七日以降、高令者も含む団体交渉を更に強化し、退職強要を許さぬ取り組みを強化していこう。



高令者を切り捨てる当局の「三本柱」に対し、激しい怒りの声。